



21世紀のプリンタビジネス

河井 正彦

新世紀を迎え、経済のみならず社会全般はインターネットを中心とした情報技術を基盤に構成されつつある。情報の質はますます多様化し、情報の量は幾何級数的に増大している。また全ての情報はネットワークを介することが前提となる。したがって、ヒューマンインタフェースの高度化は必要不可欠であり、美しく読みやすいあるいは見やすいドキュメントとして情報を提供するプリンタの役割もますます増大している。

沖データは21世紀に向けてプリンタビジネスを従来の単体ビジネスからシステムソフトウェア、アプリケーションを含めたソリューションビジネスにビジネスモデルを転換した。“プリンティングソリューションの提供”を企業ビジョンとして掲げ、さらに高い顧客価値、企業価値を目指していく。

プリンタ市場環境

インターネットや電子メールの普及によってペーパレス化が進むように言われたが、紙を媒体とする確実性、信頼度、手軽さからプリンタ市場は拡大を続けている(図1)。さらにカメラ、ビデオ、コピア、TVなどがデジタル化され、これらの画像出力としてプリンタの用途も拡大している。一方、インクジェットプリンタが火付け役となってカラー化も予想以上の速度で伸長している。

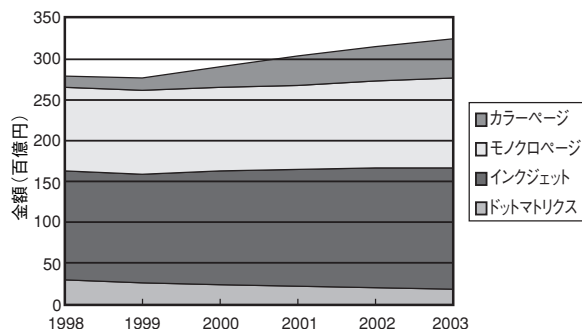


図1 プリンタの世界市場¹⁾

方式別にみるとインパクトプリンタが衰退期に入り、インクジェットプリンタ、モノクロページプリンタが安定期に入った。その中でカラーページプリンタが年率30%以上の急激な成長を続けている。今後、カラーページプリンタを軸に複合機、軽印刷、Web印刷など新しいプリンタ市場の拡大が見込まれる。

沖データの事業戦略

沖データはこれまでインパクトプリンタ、ページプリンタ、ファクシミリの3本柱で事業を進めてきた。インパクトプリンタは高性能、タンクタフ(頑丈さ)、高品質を強みにトップサプライヤの地位を確保している。同時複写が可能なインパクトプリンタへの市場要求も根強く、今後も全世界120カ国以上の販売を継続、維持していく。モノクロページプリンタではデジタルLED(Light Emitting Diode)ヘッドによる小型、高速、高信頼性の商品を提供してきた。中でも、デジタルLEDによるカラーページプリンタは従来機より印刷速度を大幅に向上して、本格的ビジネスカラープリンタとして注目を集めている。ファクシミリではLEDプリンタをベースとした普通紙ファクシミリを商品化してきたが現在インターネットを利用した提案を進めている。

今後、デジタルLEDヘッドの高速、小型、高信頼性という特徴をさらに生かすカラーページプリンタに注力し、市場要求に応えていく。

プリンティングソリューションの提供

ネットワーク環境下で使用されるカラーページプリンタはオンデマンド印刷の実現をもたらし、広い分野の顧客からの要望に応える事が重要である。そのため、

- (1) グローバルマーケティング
- (2) 顧客の使用環境に最適なプリンタシステムソフトウェア、アプリケーション、サービスの提供
- (3) 大量印刷に合わせてプリンタの維持、管理費を含めたTCO(Total Cost of Ownership)への対応

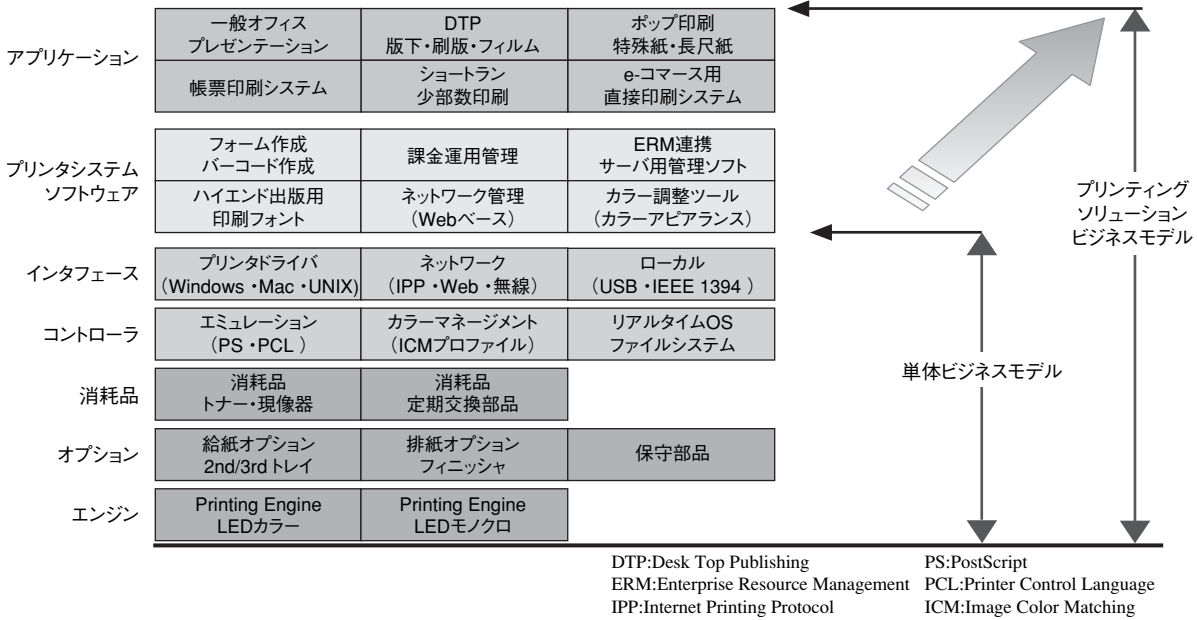


図2 プリンティングソリューションビジネスモデル

等の強化を実施し、常にお客様の立場に立った価値あるプリンティングソリューションの提案が可能な体制としている。

技術戦略

沖データのカラーページプリンタはデジタルLEDヘッドによるシングルパスカラー^{TM*1)}方式を採用している。これは現在多くのカラー機に採用されている中間転写方式に比較するとシンプルな構造で高速印刷に有利である。昨年発売開始した新商品は1200DPI (Dots Per Inch)の高解像度で毎分21枚の高速印刷を実現した。今後、さらにシングルパスカラーTMページプリンタの高精細化、高

速化の技術開発に力を入れ、オフセット印刷相当の画像品質と印刷速度を実現させる。

使いやすさ、便利さなどの顧客満足度の高いプリンティングソリューションを提供するため、図2に示すように、e-コマース用直接印刷システム、特殊紙ポップ印刷等のアプリケーション、課金運用管理、カラー調整ツール等のプリンタシステムソフトウェアを開発し、積極的に提案を行っている。

地球環境保護に対する取組み

沖データは、環境問題にいち早く取組み、独自の製品環境アセスメントを制定し、省エネルギーをはじめ、製品のリサイクル設計など環境負荷の少ない製品を提供している。さらに、お客様の負担の低減と資源の有効活用のため、使用済みの消耗品の無料回収を昨年から開始した。また、企業として植林運動に参加、後援してきたが、今後もゼロエミッションを目指し地球環境保護に積極的に取り組む。

参考文献

1) (社)日本電子工業振興協会：プリンタに関する調査報告書、00-周-3、pp10～19、2000

● 筆者紹介

河井正彦：Masahiko Kawai.株式会社沖データ 代表取締役社長

TiPo 【デジタルLEDヘッド】

デジタルLEDヘッドは当社が長年培ってきた技術であり、LED（発光ダイオード）アレイを一列に精度よく並び、各LEDからの光を等倍の光学系で受光面上に集光する構成である。各LEDを電子走査するため、稼働部が無く信頼性が高い。デジタルLEDヘッドはミラー走査型のレーザスキャナに比較して各光スポットの位置精度が高く、長時間変化しない特性を持つ。この特性が色重ね精度を必要とするシングルパスカラーTM方式を可能としている。さらに、デジタルLEDヘッドは高分解能、高速、小型の特徴を持ち、高画質にして高速なカラーページプリンタの実現を可能にしている。

*1) シングルパスカラーは株式会社沖データの商標です。